

2024 年度

高齢者福祉実践・研究大会 発表者一覧



≪期日≫

令和7年2月21日（金）

10時～17時45分

≪会場≫

あべのハルカス 23階 キャンパスフロア

≪主催≫

社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
老人施設部会

(TEL) 06-6762-9001

スケジュール等の詳細は

「さくら草ネット」から

ご覧いただけます ⇒⇒

<https://www.a-kaigo.gr.jp/>



発表者 No.1



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	10時00分～10時20分
学校名	大阪大谷大学	所属	人間社会学部 人間社会学科
カテゴリー	○学生発表	タイトル	高齢者介護施設における地域支援について
発表概要	<p>ソーシャルワーク実習のB実習にて高齢者総合福祉施設であるどうみょうじ高殿苑から様々な学びを得た。その中で、どうみょうじ高殿苑が行っている地域支援に対して着眼点を持ち、実際に行われていた支援について発表したい。</p> <p>内容は、どうみょうじ高殿苑の大まかな概要とそこで行われている地域支援の紹介や実際に参加・同席したことに対する考察、まとめ等である。</p>		
発表者	<p>■奥野 真緒</p> 		

発表者 No.2



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	10時20分～10時40分
学校名	四天王寺大学	所属	社会学部 人間福祉学科
カテゴリー	○学生発表	タイトル	地域住民に対する包括的支援とは
発表概要	<p>ソーシャルワーク実習において私は高齢者施設と地域包括支援センターに行かせていただいた。実習の中で、独居の高齢者の「死にたい」という発言に触れたり、徘徊を繰り返す高齢者の見守りでの地域包括支援センターとその職員の役割を学んだ。</p> <p>今回は事後学習で学んだ包括的支援にスポットをあてて発表していきたい。</p>		
発表者	<p>■浅野 光星</p> 		

発表者 No.3



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	10時40分～11時00分
学校名	大阪健康福祉短期大学	所属	
カテゴリー	○学生発表	タイトル	
発表概要	準備中		
発表者			

発表者 No.4



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	11時00分～11時20分
学校名	大阪大谷大学	所属	人間社会学部 人間社会学科
カテゴリー	○学生発表	タイトル	特別養護老人ホームにおける個別ケアの重要性—四天王寺悲田院特別養護老人ホームでのソーシャルワーク実習を通じて—
発表概要	<p>福祉専門職としてのコミュニケーションをより実践的に学ぶことを目標に SW 実習に取り組んだ。</p> <p>四天王寺悲田院特別養護老人ホームでは、一人ひとりに合わせた個別ケアを重視している。ユニット合同レクでは、要介護度別に内容を変え、身体状況に応じてイベントを楽しむことができる。「自律支援」とは、コミュニケーションにおいて、声の大きさやトーン、間のとり方、話す速度、目線といったことに気を配れることである。</p>		
発表者	<p>■河田 楓花</p> 		

発表者 No.5



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	11時20分～11時40分
法人名	上神谷福祉会	施設名	特別養護老人ホーム槇塚荘
カテゴリー	○研究発表	タイトル	現場のホンネ！～大学院生が聞くICT機器のメリット・デメリット～
発表概要	<p>『働きやすい環境づくり』のため、1つまた1つとICT機器を取り入れて早や5年以上経過しました。私たちの法人でICT機器の活用はどれくらい前進したのか、それともしていないのか？客観的な視点から一緒に考えるキッカケを下さったのは、関西大学修士課程の学生さんでした。</p> <p>現場でICT機器を使用する職員のホンネを聞き取り、良いことも悪いことも含めて、今後の課題を浮き彫りにするまでの取り組みを発表します。</p>		
発表者	<p>■藤井 和則 (介護福祉士)</p> <p>■曹 瑞芳 (関西大学 人間健康学部 人間健康研究科)</p>		

発表者 No.6



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	11時40分～12時00分
法人名	秀幸福社会 庄栄エルダーセンター		
学校名	追手門学院中・高等学校 地域活性化プロジェクトチーム		
カテゴリー	○実践発表	タイトル	地域に学生がコミットしたら活性化した件について
発表概要	<p>茨木市の庄地区。高齢化率30%を越えつつあり、子ども会も減少の一途である。そんな地区の秋の例祭が毎年行われているが、メインである神輿を担いで巡行することが担ぎ手の高齢化、担ぎ手不足等で存続の危機にある。</p> <p>そこで近隣の追手門学院中・高等学校等に相談。生徒とこれまでの歴史、現状等を伝え、生徒なりの企画や担ぎ手の参加などで地域の方へ元気を提供した実践報告。</p>		
発表者	<p>■追手門学院中・高等学校 地域活性化プロジェクトチーム</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div>		

発表者 No.7



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	12時00分～12時15分
法人名	大阪自彊館	施設名	ジュネス
カテゴリー	○実践発表	タイトル	SNS の活用
発表概要	<p>SNS において、私がこれまで実践してきたことは投稿内容の撮影や編集です。その中で、私が意識して取り組んでいることを発表します。たとえば、「私の介護人生において…」という言葉ポジティブに使う 10 年以上のキャリアを持つ先輩がいます。</p> <p>このような、介護の仕事に誇りや信念を持っているスタッフがいることについて、SNS を通して外部に発信するために工夫していることを、IT リテラシーの観点もふまえて発表します。</p>		
発表者	<p>■磯貝 健大 (ケアスタッフ)</p> 		

発表者 No.8



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	13時15分～13時35分
法人名	こぼと会	施設名	いのこの里
カテゴリー	○実践発表	タイトル	体圧測定器の導入から、特養での実践とその成果
発表概要	<p>当施設の配置医師が健康管理の中で、体圧測定器があればどんな ADL、時期の方にも安楽な姿勢がとれ、最期まで食べる楽しみを続ける事ができるのではないかと導入の相談があり、体圧測定器の導入に至った。</p> <p>測定値に基づいたケアを行う事で、入居者の生活の質の向上、職員間での連携がみられた。特養で配置医師と体圧測定のラウンドをするのは珍しいと思い、体圧測定器の導入から実践内容までを紹介する。</p>		
発表者	<p>■竹村 清仁 (介護支援専門員)</p> 		

発表者 No.9



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	13時35分～13時55分
法人名	そうび会	施設名	特別養護老人ホームつるぎ荘
カテゴリー	○実践発表	タイトル	つるぎ荘での車椅子座位支援 ～安楽にすごしていただくことを目指して～
発表概要	<p>特別養護老人ホームでは下肢機能の低下などにより、車いすを使用することが多く、「安定した車椅子座位」と「安楽にすごして頂く」ということが密接につながっています。</p> <p>目の前の入居者さんが「ずれてきてしんどそう」「傾いて座っておられるが良い方法はないかな?」「楽に食事をとって頂くにはどうすれば?」という日々の疑問・気づきを発端に、機能訓練指導員、介護士、看護師で検討した座位支援の一部を報告します。</p>		
発表者	<p>■渡邊 美恵 (理学療法士)</p> 		

発表者 No.10



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	13時55分～14時15分
法人名	愛和会	施設名	特別養護老人ホーム豊中あいわ苑
カテゴリー	○実践発表	タイトル	認知症ケア ～認知症の「人」の立場に立ったケアの実践～
発表概要	<p>2年目の職員に対して技術面主体で指導してきた。しかし、認知症ケアにおいて重要なことは、その「人」の立場、行動の意図を考えたアセスメントとなる為、今回の取り組みを通して今まで以上に認知症についての知識を深め、職員主体の考えではなく、利用者主体の考えを基にケアを展開できるような成功体験を得ることができた。</p> <p>指導者として、認知症ケアのやりがい伝えていく大切さを実感した事例について報告する。</p>		
発表者	<p>■善明 大介 (介護福祉士 副主任)</p> 		

発表者 No.11



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	14時15分～14時35分
法人名	四天王寺福祉事業団	施設名	四天王寺悲田院養護老人ホーム
カテゴリー	○実践発表	タイトル	入居者の要望を叶え、日常生活での楽しみなど自己実現できる環境への取り組み
発表概要	<p>各入居者にどのような夢があるのか聞き取りを行い利用者の選定を行う。 対象者が決まればご本人を交え詳しい希望を伺い ADL や既往歴を考慮した具体的な企画を立て実施しました。 終了後はアンケートを実施し満足度を測りました。</p>		
発表者	<p>■米田 拓 (支援員)、堀内 一輝 (支援員)</p> 		

発表者 No.12



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	14時35分～14時55分
法人名	恩賜財団済生会支部 大阪府済生会	施設名	泉南特別養護老人ホーム なでしこりんくう
カテゴリー	○実践発表	タイトル	利用者一人一人の尊重したケアを目指して ～介護リフトを導入し安全・安心な取り組み～
発表概要	<p>A 氏に対して、内出血のインシデント報告が繰り返されました。安全に移乗をする為に 2 人で介助を行っていたが内出血は続き、スピーチロックにあたる声掛けになってしまう職員主導の介護になっていた。 解決するためにリスク委員・ICT 委員が話し合い、介護リフトの活用について意見を出した。利用者の個性を尊重したケアを実施するためにフロア全体の取り組みとして、他職種と協力し移乗リフトの使い方を直接伝達した。</p>		
発表者	<p>■村瀬 結惟 (介護福祉士)</p> 		

発表者 No.13



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	14 時 55 分～15 時 10 分
法人名	美木多園	施設名	特別養護老人ホーム美樹の園
カテゴリー	○実践発表	タイトル	職員の声から生まれた “ THE BEST ユニフォーム ”
発表概要	<p>「肌寒い時に羽織りながら介助できるちょうど良いユニフォームがほしい」という職員の声を受け「制服プロジェクト」を立ち上げました。全職員に希望を聞き、自分たちで生地を選び、デザインを考え、試行錯誤しながら創作。</p> <p>詰め込み過ぎた“こだわり”の取捨選択や値段交渉に難航しながらも、およそ 2 年かけて納得のいくユニフォームが完成。働く環境が改善し、また統一したユニフォームを着用することでチーム感が高まりました。</p>		
発表者	<p>■今岡 尚樹 (介護職) 高塚 亜希子 (生活相談員)</p> 		

発表者 No.14



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	15 時 30 分～15 時 50 分
法人名	大阪府社会福祉事業団	施設名	特別養護老人ホーム白鳥荘
カテゴリー	○実践発表	タイトル	ユニット型施設におけるノーリフトケアの仕組み作りと確立による未来の介護人材育成事例
発表概要	<p>人材確保や育成が社会的に急務となる介護施設において、ノーリフトケア導入をきっかけに様々な人材が活躍できる事となった事例と、当ユニットケア施設で行われた研修方法や実施に至るまで過程と取り組みを発表させていただきたいと思います。</p>		
発表者	<p>■山田 汰知 (介護職) 長谷川 一平 (介護主任)</p> 		

発表者 No.15



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	15時50分～16時10分
法人名	秀幸福社会	施設名	庄栄エルダー デイサービスセンター
カテゴリー	○実践発表	タイトル	ムリ・ムダ・ムラなく働きやすい職場作りを目指す
発表概要	<p>「この人に聞かないと分からない」「あれはどこにあったかな」「無いと思って購入したが別の場所に在庫があった」など職場のなかで発生する問題はいくつもある。また、業務に追われ利用者に関わりを持てる時間にも限りがある。</p> <p>ムリ・ムダ・ムラをなくし、誰が見ても分かる仕組みづくりを整えることで効率よく働くことができれば様々な場面で『ゆとり』が生まれるのではないかな。課題解決に向けて実践した取り組みと今後に向けて。</p>		
発表者	<p>■真田 えりか (介護職員)</p> 		

発表者 No.16



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	16時10分～16時30分
法人名	堺暁福社会	施設名	特別養護老人ホーム遊ぶる
カテゴリー	○実践発表	タイトル	介護機器導入による動画マニュアルの活用について
発表概要	<p>利用者の個別対応方法やマニュアルを共有するためにタブレットを使用しています。タブレットで撮影した動画や写真を活用し、共有することでケアの統一を図っています。タブレット活用後の成果と課題について発表致します。</p>		
発表者	<p>■雪山 花菜 (ホーム職員)</p> 		

発表者 No.17



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	16時30分～16時50分
法人名	和悦会	施設名	浜特別養護老人ホーム
カテゴリー	○実践発表	タイトル	柔道整復師合格までの道のりとその後
発表概要	<p>約11年間、事務員として業務をしてきた自分が、とあるきっかけで柔道整復師に興味を持ち、現在はデイサービスの機能訓練指導員として勤務している経緯についてお話しします。</p> <p>働きながら学校に通い勉強することは大変でしたが、これから資格取得やキャリアアップを目指そうとしている方のお役に立てればと思います。</p>		
発表者	<p>■田中 聖大 (機能訓練指導員)</p> 		

発表者 No.18



会場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	16時50分～17時10分
法人名	東光学園	施設名	特別養護老人ホームふれ愛の家
カテゴリー	○実践発表	タイトル	自身の成長とチーム作り
発表概要	<p>20～30代前半の職員で、施設の課題解決や改善、チームビルディングを目的に毎月会議を行っています。職員の意見交換からフロアや施設の課題を抽出し具体的な取り組みが明確になり3つの部に分かれて活動しています。</p> <p>ロボット部・SNS部・地域部に分かれ、課題や活動内容、取り組み後の成果など、活動していく中で自分自身の成長を感じ仲間と協力し挑戦する事の重要性を学んだ事を発表したいと思います。</p>		
発表者	<p>■吉田 真由 (生活相談員) 田中 千弘 (介護職員)</p> 		

発表者 No.19



会 場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	17時10分～17時30分
法人名	大阪自彊館	施設名	ジュネス
カテゴリー	○実践発表	タイトル	サービス向上委員会におけるフロア課題に対する取り組み —働きやすく、質の高いサービスを統一して提供する—
発表概要	<p>様々な職員が働く特別養護老人ホームにおいて、「ケアの統一・質の向上」に関する課題は常に生じてくる。「より良いケア」を提供するために、「各フロアの連携」「多職種連携」「マニュアル・ツールの整備・フロアへの発信」等、検討すべき事項は非常に多い。</p> <p>ジュネスでは、それぞれの課題に対して取り組み内容を決定し実行していくシステムの構築として、「サービス向上委員会」を組織している。その成果と今後の展望を発表する。</p>		
発表者	<p>■溝口 翔太 (ケアスタッフ)</p> 		

発表者 No.20



会 場	分科会 A (大阪大谷大学)	発表時間	17時30分～17時45分
法人名	大阪府社会福祉事業団	施設名	特別養護老人ホーム高槻荘
カテゴリー	○実践発表	タイトル	介護補助職員の活躍～介護職員の専門性の発揮とシニアの生きがいつくり～
発表概要	<p>介護職員の専門性を考え、それを発揮できる環境作りを目的に、令和5年度から加配してきた介護補助職員。高槻市健康生きがい就労トライアル事業に参加し、施設課題と地域課題の両方の解決に向けての取り組みをまとめました。</p>		
発表者	<p>■西村 友喜 (介護職員)</p> 		

発表者 No.21



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	11時00分～11時20分
法人名	みささぎ会	施設名	高齢者ケアセンター大仙もずの音
カテゴリー	○実践発表	タイトル	その人らしいくらしの実現 ～主訴実現プロジェクト～
発表概要	<p>コロナ禍により面会や外出もできず、閉鎖的な生活となり、ご利用者の心の安定が図れていないこともありました。利用者の望む暮らし、その人らしい暮らしの実現のために、カンファレンスを通じて利用者と共に“やりたいこと”を共に考えていきました。</p> <p>そこで、ご利用者が希望されたコトを、多職種そしてご家族と共に創意工夫し実現していきました。</p>		
発表者	<p>■柴田 麻友 (ユニットサブリーダー) 廣瀬 武則 (ユニットリーダー)</p>		

発表者 No.22



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	11時20分～11時40分
法人名	聖徳会	施設名	大阪老人ホームうえだ
カテゴリー	○実践発表	タイトル	日常にちょっとした楽しみを ～たまには居酒屋気分～
発表概要	<p>日常と異なるちょっとした楽しみを感じていただきたく、介護職、管理栄養士、看護師が協働で「居酒屋喫茶」を月1回開催した。</p> <p>利用者から食べたいものをリクエストいただいて提供したり、もともとの喫茶室を居酒屋風に飾りつけたり、BGMを流したりなど、工夫し雰囲気も楽しめるように取り組んだ。</p>		
発表者	<p>■宇佐美 亜樹 (生活支援課 課長) 香美 朋子 (管理栄養士) 植村 由香 (看護師 サブチーフ)</p>		

発表者 No.23



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	11時40分～12時00分
法人名	悠人会	施設名	特別養護老人ホームベルアルプ
カテゴリー	○実践発表	タイトル	その人の暮らしをより豊かにする為に
発表概要	<p>加齢等を理由とした身体状況の変化により、ベッド上での暮らしが長く、生活範囲や生活上の役割を担う事が限られる利用者が増加してきている。当ユニットでは、日々の活動を通じて、その人の暮らしが、より豊かになることを目指している。</p> <p>今回、QOL維持・向上を目指して、ICFモデルの「活動」「参加」に着目した。背景や思い等の情報を収集・分析し「活動」「参加」につながる「目的のある離床」をテーマに支援を展開したのでここに報告する。</p>		
発表者	<p>■小原 誠 (介護福祉士 (リーダー))</p>		

発表者 No.24



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	12時00分～12時15分
法人名	光風会	施設名	特別養護老人ホームたちばなの里
カテゴリー	○実践発表	タイトル	認知症があっても「はたらく」・「地域で暮らす」
発表概要	<p>長年ヘルパーとして活躍されていた職員が認知症に。家族・地域包括・本人・私で今後の生活について意見交換し、働くことが最大の生きがだった彼女の雇用を継続するために支援付き雇用をスタート。徐々に「認知症があっても働ける」が施設内であたりまえになり、ありがたい存在として職員の認識に変化が起きました。</p> <p>短期記憶が日増しに難しくなる中、今では職域や働く時間も拡大し、誰よりも笑顔で元気に働いてもらっています。</p>		
発表者	<p>■次田 尚哉 (施設長)</p>		

発表者 No.25



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	13時15分～13時35分
法人名	みささぎ会	施設名	藤井寺特別養護老人ホーム
カテゴリー	○実践発表	タイトル	こども食堂から広がる支援の輪 ～ワクワク体験を添えて～
発表概要	<p>こども食堂坂の上のキッチンオープンして1年半、活動を通じて色々な団体（企業・民生委員児童委員・地域の方等）と連携してワクワク体験（お仕事体験・防災）を実施。また、繋がりから新たな地域課題への取り組む事ができた。</p> <p>一つの団体では実施が困難なことも、連携すればできることがある事を伝えたい。</p>		
発表者	<p>■ 瀧本 直志（ソーシャルリレーション室 室長）</p> 		

発表者 No.26



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	13時35分～13時55分
法人名	堺福祉会	施設名	ハートピア堺
カテゴリー	○実践発表	タイトル	出張認知症カフェ 「奥様うっかりカフェ」
発表概要	<p>物忘れなどで困っている人とその家族、支えたい人が集まって、茶飲み話をする「認知症カフェ」を毎月1回、施設内で開催しています。多年代が集い、認知症というキーワードをもとに集う場を、様々な団体や組織の人が協力して作り上げることで、本当の意味での「認知症にやさしいまちづくり」を推し進めていくことができると考えます。そこで、関西大学堺キャンパスをちょっとお借りして開催した出張カフェについて発表します。</p>		
発表者	<p>■ 冢瀬 陽市（介護係長） 松谷 美由紀（介護スタッフ）</p> 		

発表者 No.27



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	13時55分～14時15分
法人名	聖徳園	施設名	ひらかた聖徳園
カテゴリー	○実践発表	タイトル	押して押して引いて。 引いて引いて押して。
発表概要	<p>法人のミッションに『地域に住む一人ひとりが支え合い、安心して暮らせるまちづくりに貢献します』という一文があります。</p> <p>特別養護老人ホームの地域連携課として、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも健康に、そしていきいきと暮らせる一助となるべく活動している中で、今回は新型コロナウイルス禍とちょうど伴走するように取り組んでいた「地域における居場所づくり支援」を中心に、実践・その後の報告をさせていただきます。</p>		
発表者	<p>■野坂 崇将 (施設ケアマネジャー ／地域連携課 課長)</p> 		

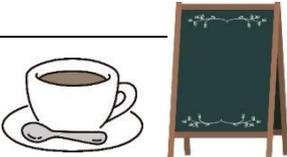
発表者 No.28



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	14時15分～14時35分
法人名	聖徳会	施設名	大阪老人ホーム
カテゴリー	○実践発表	タイトル	地域共生社会の実現に向けた町会との 合同防災訓練
発表概要	<p>介護保険施設では、いつ自然災害が発生しても介護サービスが安定的に継続して提供できるよう BCP の作成が義務付けられています。BCP の中では「地域住民との協力体制の構築」を謳っており、日頃からの地域住民と連携協力が不可欠です。</p> <p>地域住民と交流し、関係を構築することで、万一の災害時にも協力して乗り越えることができるよう地域と合同で防災訓練を開催しました。</p>		
発表者	<p>■朴 英浩 (介護支援専門員)</p>  <p>事前会議 担架づくり セニアカー体験 炊出し 紙皿づくり</p>		

発表者 No.29



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	14時35分～14時55分
法人名	東光学園	施設名	中第2地域包括支援センター
カテゴリー	○実践発表	タイトル	今までのつながり、これからのつながり～見守り活動の今後について～
発表概要	<p>地域サロンに地域包括支援センター、ケアマネ、薬剤師等が定期的に参加し、相談会を実施。この取り組みは様々な課題を抱えた高齢者の増加、住民同士の関係の希薄化を課題と捉え、支援者、地域の担い手、住民が顔の見える関係性を作ることを目的に始まった。</p> <p>最終的には、これにより相談先を把握した住民が、サロンに来ていない住民にも声掛けや見守ることができるような、困りごとを抱え込まずに早期解決できる地域を目指している。</p>		
発表者	<p>■細川 友莉 (社会福祉士)</p> 		

発表者 No.30



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	14時55分～15時10分
法人名	もくせい会	施設名	きんもくせい
カテゴリー	○実践発表	タイトル	地域の方と演じた「きれいごとで済まないお家での介護の実態」
発表概要	<p>地域の方や校区委員、ボランティアの方と劇を行いました。内容としては「きれいごとで済まないお家での介護の実態」として脚本を書き皆様に演じて頂きました。劇に至った経緯としてはケアハウスきんもくせいでは認知症カフェや交流カフェの開催を毎月開催しており、その中で地域の方から色々な場所で在宅での介護の話や勉強会などは大体いい話になる事が多いが、実際は大変でどうしようもない話を聞きました。他の認知症カフェと一緒に劇を行うことで地域の方へ認知症の方への理解と福祉は身近な資源である事を伝える機会となりました。</p>		
発表者	<p>■村山 慶 (統括課長)</p> 		

発表者 No.3 1



会 場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	15時30分～15時50分
法人名	邦寿会	施設名	どうみょうじ高殿苑
カテゴリー	○研究発表	タイトル	社会福祉法人による子どもの居場所づくりの意義と課題 —高齢者施設の取り組みに焦点を当てて—
発表概要	<p>社会福祉法人には「地域における公益的な取組」を実施する責務があるが、法人本来の事業とは異なる対象者に対する取り組みは、人材や資金の面で負担を感じるものが少なくない。しかしながら、そうした取り組みを通じて、負担以上の意義を見出すこともできるはずである。</p> <p>そこで本研究は、社会福祉法人立の高齢者施設による子どもの居場所づくりを目的とした実践事例から、その意義や課題を明らかにする。</p>		
発表者	<p>■中本 勝也 (総合施設長)</p> 		

発表者 No.3 2



会 場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	15時50分～16時10分
法人名	由寿会	施設名	アーバンケア御厨
カテゴリー	○研究発表	タイトル	小さなことからコツコツと
発表概要	<p>当施設では、入所者様はもちろん、職員にとってもより良い環境を目指しており、その取り組みの一つとして ICT 機器などを導入した。</p> <p>その結果、職員の負担が軽減し、業務に少しゆとりが生まれた。その時間を活用し、改めて当たり前の事からコツコツと取り組んでいる。</p>		
発表者	<p>■岸本 洋子 (介護職)、山田 貴世 (介護職)</p> 		

発表者 No.33



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	16時10分～16時30分
法人名	隆生福祉会 グループホームゆめ長居公園		
	TPR 株式会社 新事業開発企画室 CoRoMoCo プロジェクト		
カテゴリ	○研究発表	タイトル	コミュニケーションサポートロボット「CoRoMoCo®」の活用事例と効果
発表概要	<p>コミュニケーションサポートロボット「CoRoMoCo®」のデモ機を活用し、利用者の日常生活への影響を調査した。様々な活用事例が見られ、利用者の気分転換やストレス軽減に寄与する様子が確認された。</p> <p>本発表では、これらの成果をもとに、今後の現場でのコミュニケーションロボット活用の可能性について考察する。</p>		
発表者	<p>■東出 悠子 (隆生福祉会 チーフ)</p> <p>■内田 洋輔 (TPR(株) プロジェクトリーダー)</p>		

発表者 No.34



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	16時30分～16時50分
法人名	みなと寮	施設名	特別養護老人ホームみなと弘済園
カテゴリ	○研究発表	タイトル	楽しみから繋がる生活の質を向上！ ～わたしはなにもしたくない。～
発表概要	<p>入院を機に「ご飯いらんねん」と、自身の意思で経口摂取せず、日常生活での活気もなくなり「わたしはなにもしたくないねん」と仰っていた A さん。</p> <p>看取りも視野に入れての退院となったが、A さんの気持ちをさぐる中での気づきやアプローチ方法について発表します。</p>		
発表者	<p>■瀬沢 雅之 (生活支援員)</p> <p>矢野 裕奈 (生活支援員)</p>		

発表者 No.35



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	16時50分～17時10分
法人名	由寿会	施設名	特別養護老人ホーム アーバンケア八戸ノ里
カテゴリ	○研究発表	タイトル	5Sの推進と3Mの削減～整理整頓・業務改善に向けての取り組み～
発表概要	<p>5Sの推進と3Mの削減を図ることで、作業効率化と生産性向上が期待できる。少子高齢化による労働人口の減少に伴い、作業効率化と生産性向上は介護業界でも急務である。</p> <p>当施設では、今まで当たり前のこととして捉えていた業務・作業の見直しを図り、職員の働きやすい環境づくりを目指した。</p>		
発表者	<p>■生島 穂 (介護士)、河本 綾乃 (介護士)</p> 		

発表者 No.36



会場	分科会 B (四天王寺大学)	発表時間	17時10分～17時30分
法人名	成光苑	施設名	せつつ桜苑 居宅介護支援事業所
カテゴリ	○研究発表	タイトル	事業者情報の更新と管理方法についての研究
発表概要	<p>事業所に毎月送られてくる大量の資料やパンフレットの保存や管理方法を新たな課題として捉え、資料を従来の手作業でファイリングする方法とデータ化した場合の手間としてかかる時間の比較を行い、今後の情報共有の方法、更新作業の効率化、サービスの質の向上を目指す為の研究を行いました。</p>		
発表者	<p>■篠田 千夏 (ケアマネジャー)、奥尾 啓美 (ケアマネジャー)</p> 		

「高齢者福祉実践・研究大会 2024 in OSAKA」発表者一覧

発行 令和6年12月

企画・編集・発行

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 老人施設部会

〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54

大阪社会福祉指導センター内

TEL : 06-6762-9001

FAX : 06-6768-2426
